

学校給食調理職場の安全作業マニュアル作り ～ OSHMS 導入作業を通じた参加型安全衛生活動の推進 ～		
ガイドラインステップ		・OSHMS ・自主的活動
1～8・11・13～16	キーワード	・参加型安全衛生活動 ・安全作業マニュアル ・リスクアセスメント
改善・取組みの背景と課題	<p>地方自治体の〇市では、部署ごとに10の安全衛生委員会を設置し、年度ごとに策定する安全衛生計画に沿って安全衛生活動を行ってきたが、労働災害発生件数が年間60件程度で推移し、安全衛生活動方法の全般的な見直しが必要であると考えられた。そこで、安全衛生委員会で調査審議した結果、OSHMS(労働安全衛生マネジメントシステム)を導入することが決定され、外部の専門家の協力を得ながら、3年計画でOSHMS導入作業を進めた。</p> <p>第1ステップとして、10の安全衛生委員会関係者を対象に、OSHMS概要(基礎)研修を1回、OSHMS導入研修を4回にわたって実施。第2ステップとして、職場での自主的な安全衛生活動の定着を目指し、10の安全衛生委員会ごとにリスクアセスメント研修を実施した。第3ステップとして、部署(安全衛生委員会)ごとの課題を把握し、その課題を改善するための目標を設定し、リスクアセスメントを継続しながら、部署(安全衛生委員会)ごとに安全衛生活動を進めている。</p>	
改善・取組みの着眼点	<p>学校給調理場安全衛生委員会では、以下の点に着目しながら活動を進めた。</p> <p>それぞれの職場のリスクに対応できる安全衛生対策ツールを、当事者が参加し、リスクアセスメントの考え方を取り入れながら、当事者自身の手で作成する。</p> <p>当面は従来からある安全作業マニュアルを見直した上でブラッシュアップすることを目標とする。</p> <p>OSHMSを導入し、自主的で継続的な安全衛生活動の定着を目指す。</p>	
改善・取組みの概要	<p>研修はすべて職場巡視を取り入れ、その結果をもとに良好事例、改善事項についてグループ討議するなど参加型で実施した。また、部署(安全衛生委員会)ごとに、リスクアセスメントの考え方を取り入れた課題を設定し、活動が継続するよう一定期間で実施する目標を自分たちで設定してもらった。</p> <p>学校給食調理場では、当面の作業として、安全作業マニュアルのブラッシュアップが目標として設定された。〇市の学校給食は、各学校に給食調理室が併設された自校方式のため、毎月1回各学校の代表者が集まり、安全作業マニュアルの改訂ワーキングを行った。ワーキングでは、既存の安全作業マニュアルの使いやすい点の確認と、改善が必要な事項のリストアップ、改善提案、改善作業が反復して行われた。改善提案された内容については、現場で実際にやってみて、作業しにくければさらに改善提案するなど、ワーキングを通して改善提案と改善策の検証を反復しながら作業が進められた。</p>	

<p>写真・図表・イラスト</p>	 <p>写真は安全作業マニュアル改訂ワーキング</p> <p>右の資料は、安全作業マニュアルの改訂フロー図</p> <pre>     graph TD       A[マニュアル作成] --&gt; B[更新、改善案作成 (調理員代表・労安委員)]       B --&gt; C[案を基に職場全員で検討し、確認を行う。 現場の意見を取り入れることで、より使いやすいものへ改善を図る。]       C --&gt; D[マニュアル作成(職場案)し、労安会議で検討を行い、 不足を補う。]       D --&gt; E[マニュアルを活用し、調理員全員での研修を行う。 再確認情報共有を図ることを目的とする。 (職員、嘱託職員、臨時職員)]       E --&gt; F[職場で活用 問題・課題が発生した場合、定例会等で改善案を協議]       F --&gt; A       F --&gt; B       F --&gt; C       F --&gt; D       F --&gt; E       F --&gt; F       </pre> <p>マニュアル作成</p> <p>素案作成 機器の安全な取扱い、緊急時の対応 調理員代表(職場で労安専門部を立ち上げメンバーを選出)・労安委員</p> <p>更新、改善案作成 (調理員代表・労安委員)</p> <p>案を基に職場全員で検討し、確認を行う。 現場の意見を取り入れることで、より使いやすいものへ改善を図る。</p> <p>マニュアル作成(職場案)し、労安会議で検討を行い、 不足を補う。</p> <p>マニュアルを活用し、調理員全員での研修を行う。 再確認情報共有を図ることを目的とする。 (職員、嘱託職員、臨時職員)</p> <p>職場で活用 問題・課題が発生した場合、定例会等で改善案を協議</p>
<p>効果</p>	<p>安全作業マニュアルは、以前から作成されていたが、使いにくい点が放置されており、改良の余地が残されていた。リスクアセスメント研修を契機に、安全作業マニュアルの改訂が目標として掲げられ、毎月1回のワーキングで、マニュアルの使いやすい点、使いにくい点の検証が行われた。各学校の調理場では、日頃の作業時に気づいた点をマニュアルに手書きで書き込み、次回のワーキングで報告するなど、一連の作業は、労働者自身の手で、リスクアセスメントという新たな手法を使って参加型で行われた。</p> <p>また、OSHMS導入作業を開始して2年間で、O市全体の労働災害発生件数が半減(55件 41件 28件)したが、学校給食調理場ではもともと発生件数が少なく、大きな変化はなかった(3件 2件 3件)。</p>
<p>このGPSの経験から学ぶことができるポイント</p>	<p>忙しい中にOSHMSという新しいシステムを導入することとなり、職場から負担感や不満感が訴えられ、作業開始当初は混乱した。</p> <p>自治体は、事務系をはじめ、清掃、教育、学校給食、保健、福祉、医療、消防、上下水道など様々な業種の集合体であるため、それぞれに適したアプローチが必要となり、研修などの準備に時間を要した。</p> <p>10の委員会合同の全体研修のグループワークでは、委員会をランダムに班編成することで、委員会の枠を超えた良好事例の水平展開が見られた。</p> <p>できるだけポジティブな点に焦点を当てることを基本とし、職場の課題については、「悪い点」という表現を避け、「改善が必要な事項」と呼ぶなど、できるだけネガティブな印象を与えないようにした。また、できることからスモールステップで進めることとした。</p>
<p>参考資料</p>	<p>1) 渡辺裕晃, 甲田茂樹, 佐々木毅, 鶴田由紀子, 伊藤昭好, 原 邦夫, 堤 明純, 山口秀樹, 丸山正治: 自治体職場への OSHMS 導入 - 導入途上の状況と今後の展望 -, 労働安全衛生研究, 3(1), 11-16, 2010</p>
<p>投稿者</p>	<p>渡辺裕晃      e-mail      h-watanabe@city.omuta.lg.jp      2010年10月29日</p>